2022 年頭の挨拶

新年明けましておめでとう御座います。旧年中は大変お世話になり有難う御座いました。
本年も宜しくお願い申し上げます。

国内のコロナ禍は一時鎮火したものの、年明けからのオミクロン株流行が心配であり、今後もインフラ産業として緊張を保ち業務遂行にあたりたいと思います。今年は創業 100 周年を迎えますが、岸田総理の年頭記者会見ではエネルギー・環境問題を最重要課題と位置付けており、新天地勝央町を含めたガス供給が問題解決の一旦を担うと信じております。我々を取り巻くエネルギー環境は一昨年の 2050 年ＣＮ宣言から大きく前進し、その変化のスピードは我々の想定を遥かに超え、１年がそれこそ 3～4 年の激変で推移しました。変化の先に見えるものはＣＮの後のカーボンネガティブな状況を目指す“真水の熱変”です。その “熱変”を睨み下記重点項目３点を掲げ推進します。

1. 現有資産の有効利用
2. 財務体質の強化
3. 人材育成

1. の項目は既存導管設備利用や設備運営技術が含まれ、津山圏域を包括した提案を想定しています。また導管の中身が“熱”、“水素混入の都市ガス”、“再エネ由来の水素”などへの対応も含みます。そして 2. の項目ですが“熱変を有事”と位置付け、財務体質の強化を図りたいと思います。現在のトランジッション期にＬＮＧをしっかり販売しＣＮＬＮＧに繋げましょう。そして 1. 2. 項目実現するためには 3. の項目人材育成が重要です。それには経験に立脚した通常業務学習と同時に、これからの時代に対応する新しい技術の取得や時代を想定する力、密林を切り開く勇気と勇気ある人間を支える強固な組織などが求められます。“密林を切り開く”ことは言葉でいうほど楽ではありませんが、国が目指すＤＸの本質をよく理解し、デジタルによってもたらされるＧＸ達成度合が、我々ガス業界にどの様に影響を及ぼすのか予測してみることが一つの糸口になると感じます。最近やたらにビヨンド（Beyond）という言葉を耳にします。本来の意味は、“時空を超える”、“常識を超える”であり私は歴史を鑑みつつ、密林を切り開く言葉と解釈しています。再生可能エネルギー、水素、アンモニア、メタネーション、CO_2利用など言葉が氾濫する今日、一番大切なことはやさしい基本を理解し邁進することです。自分の進んでいる道が正しいと信じ躊躇なく前に向かってまいります。

最後になりますが、公益事業としての使命達成のため、お客さまの安定供給、保安の確保とサービスの向上をはかり社業に邁進する所存です。皆さまのご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げ、年頭の挨拶とさせて戴きます。

令和４年１月５日
津山ガス株式会社
取締役社長　苅田 善嗣